



第26年度佐賀大学評価反映特別経費事業シンポジウム

大学と地域が手をつなぐ

—地域の課題を芸術の発想できりひらく—

講演

「地域のアート・プロジェクトの現場から」  
花田伸一（キュレーター）

事例発表 1

「中心市街地の活性化に求められているもの」  
山下宗利（佐賀大学文化教育学部）

事例発表 2

「文化遺産のマネジメントとフィールドの  
デザイン—史跡の保存管理を中心に—」  
重藤輝行（佐賀大学文化教育学部）

パネルディスカッション

（講演者、発表者、フィールドデザイン  
関係職員）

場所

佐賀大学本庄キャンパス  
教養教育大講義室

日時

平成26年12月13日（土）  
13時～17時

対象（申込不要、参加費無料）

佐賀大学学生、佐賀大学教職員  
フィールドデザインやアートに関心のある方  
（学外からの参加を歓迎します）

問い合わせ先

佐賀大学文化教育学部 重藤輝行  
電話：0952-28-8236  
メール：shiget16@cc.saga-u.ac.jp

12月13日（土）

# —地域の課題を芸術の発想できりひろく—

現在、佐賀大学では平成28年度の開設を目指して「芸術学部」(仮称)構想を進めています。当該学部にはフィールドデザイン専攻を設け、有形無形に関わらず地域社会が抱える課題を芸術の視点を加えた新たな発想で切り開いていく分野をつくりたいと考えています。

佐賀の中心市街地や背振の中山間地、有田の焼き物と観光等、これらを視野に入れ、学生と住民が協働しながら教育と研究・実践の場にしたいと考えています。

本シンポジウムは、教職員、学生、市民を対象に、アートプロデュースに関わってこられた専門家を講師としてお招きし、フィールドデザインの可能性やその取り組むべき課題を明らかにしていきたいと考えています。(主催)



重藤輝行

Shigefuji Teruyuki

1968年生

1995年九州大学文学研究科史学専攻博士課程単位取得満期退学

専門は考古学(古墳時代)で現在の研究テーマは九州を中心にした古墳(埋葬施設、首長墓等)と古墳時代の集落及び土師器の研究(「史跡・埋蔵文化財を中心とした文化財の保護。研究に「古墳時代の北部九州における土器副葬儀礼の出現」や「北部九州における古墳時代中期の土器編年」

現在は佐賀大学文化教育学部地域・生活文化講座教授



花田伸一

Hanada Shinichi

1972年生

九州大学文学部美学美術史学科卒業  
北九州市在住。北九州市立美術館学芸員(1996~2007)を経てフリーランス。キュレーター、大学非常勤講師。千草ホテル(北九州市)九州芸文館(筑後市)などで美術展企画を手がける。第5回福岡トリエンナーレの協力キュレーター。釜山ビエンナーレ2014特別展キュレーター。



山下宗利

Yamashita Munetoshi

1960年生

筑波大学大学院博士課程地球科学研究科(地理学・水文学専攻)単位取得満期退学  
専門は人文地理学(都市地理学)で、東京都心部の空間利用や佐賀市中心市街地の研究を行う。現在は佐賀大学文化教育学部地域・生活文化講座教授



駅から約 2.5 km